

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年5月19日～5月25日)

2020年5月27日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領, ユーラシア経済同盟最高評議会に出席(5/19)
- 世銀, 新型コロナウイルス感染拡大対策に向けベラルーシに9千万ユーロ融資(5/22)
- ユーラシア開発銀行, ベラルーシ経済の減退と財政赤字を予測。

【ルカシェンコ大統領動静】

●セルゲエンコ大統領府長官, コチャノヴァ共和国院(上院)議長, シエイマン大統領官房長, オルダ労働組合議長と会談(5/25)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・経済と人々の治療に注目している。世界では、多くの国が国境を閉鎖した。ベラルーシのパートナー国の状況は、ベラルーシ経済の発展に影響を及ぼした。

・ベラルーシの経済は、輸出志向である。そのため、経済に一定の減速が見られた。しかし、その減速は受け入れ可能な水準である。また、農業や建設業、IT産業は、一定の成長を見せている。製造業においては、部品の調達ができないという理由で、販売ができない事態が起きた。しかし、既に販売が開始されており、これは未来に向けた良い兆候である。

・新型コロナウイルス感染拡大対策において、ベラルーシが選んだ状況や道は、世界で唯一となり、一定の成果を伴った。ここ数ヶ月は、大統領の任期において最も辛い時期の一つであった。最も辛い時期は、任期初期の1994年、国民を食べさせるものがなかった時である。

・これが(新型コロナウイルス拡大の)最後の月である。このまま行けば、我々はこの病気に打ち勝ったと考えることができる。ヴィテプスク州で始まったが、既に感染率の減少が見られる。その証拠に、我々は、新型コロナウイルスの予備として確保していた病院を綺麗に片付け始めている。ミンスクでも同様に状況が落ち着き始めている。ミンスク州、モギリョフ州でも状況は悪くない。あとは、プレスト州とゴメリ州が問題として残っており、我々は管理しなければならない。両州は、他の地域より遅く感染拡大が始まったため、感染沈

静化も1週間ほど遅れると専門家が言っている。

・新型コロナウイルスに関するフェイクニュースが拡散されている。フェイクニュースの作者は、医師についてではなく、自身の快感のみを考えている。我々は耐える必要がある。誰の口も閉ざしてはいけない。人々は、彼らが思っているように話させればよい。ジャーナリストとブロガーは、誠実かつ客観的に情報を発信する必要があり、騒動を起こすべきではない。不誠実に、事実と異なることを書けば、その責任を取る必要がある。ロシア第一チャンネルがそうであった。

・現在、ロシアでは欧州のプレスに対し、ロシアにおける新型コロナウイルス感染状況に関する情報捏造に対し謝罪するように求めていると聞かすが、何故ロシアは同じことをベラルーシで行ったのだろうか。

・大統領選挙は国民の政府に対する試験であり、国家管理能力を示す必要がある。大統領選挙参加資格となる署名について現時点で20万人分得ていると聞いているが、これに止まってはならない。署名を得るにあたって、社会でどんな問題があるのか、知るべきであろう。

・大統領選挙が始まる前に、内閣改造を実施する予定である。

(5/21 大統領府公式ホームページ)

●軍事科学実験施設「OKB TSP」を視察(5/22)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・パンデミックにもかかわらず、誰も戦争を止めることはない。残念ながら、平和なときに、戦争の準備をする必要がある。準備をしなければ、将来苦い思いをすることになる。

・防衛能力維持に向けた武器開発には、多くの資金

が必要となる。今は余計な資金はないが、それでも防衛に出費しなければならない。

・防衛に関する戦略的な課題は、敵に損失を与えることである。戦うことを画策している者に、我々が対抗できると理解させるために、今示す必要がある。今日、防衛の観点で模範解答となるのは、高精度のミサイルである。この方向にむけ、我々は軍事力を発展させている。

・我々は、他国を侵略するつもりはなく、平和愛好的な国である。そのため、大陸間核弾道ミサイルの開発は意味がない。

(5/22 大統領府公式ホームページ)

●カラニク保健大臣、コシニェツ大統領補佐官と会談 (5/21)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・保健省が準備した「医療事業の許認可が必要となるサービス一覧に関する政令」について、不要な許認可のプロセスを排除すべく取り組んできた。

・一方で、国民の安全を確保し医療市場を発展させていくことを念頭に置く必要がある。

・しかし、政府が医療サービスのプロセスにおいて無駄に規制をしている可能性がある。もう一度、あなた方と議論した後、専門家との協議を行いたい。

・新型コロナウイルス感染状況については、状況は改善しているが、油断してはならない。医療従事者は頑張っている。保健省も上手く取り組んでいる。もう少し我慢して欲しい。あと1ヶ月はもがく必要がある。

・ミンスクとヴィテプスク州では、感染率が減少している。両地域は、他の地域に先駆けてこの問題に突入した。そして他の地域に先駆けてこの問題から抜け出している。

(5/21 大統領府公式ホームページ)

●ユーラシア経済同盟最高評議会に出席 (5/19)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・EAEU共通市場におけるガス輸送サービスの価格設定の問題が未解決のままである。数年間、相互に受け入れ可能な最終解決案を決定できずにいた。問題

の緊急性は高まっており、本日、コンセンサスを得る必要がある。

・本日の主要議題は、2025年までのユーラシア経済統合の発展のための戦略的方向性の採択である。同文書は、関係深化に向けた行動計画でもあり、加盟国経済の回復と発展の加速に向けた道のりにおける転換点でもある。文書の事前準備は困難を極めたが、我々は、統合深化に向けた全ての分野において合意された決定へと到達することができた。各国の建設的なアプローチに感謝する。

・世界、旧ソ連圏において、状況は絶えず大変動の状態にある。その大変動に対する認識が、各国で劇的に変化し始めていることは、明らかである。長期に亘る検疫と自己隔離は、超大国でさえ、国境閉鎖および企業活動停止の条件において、経済の後退に耐える余力がないことを明確に示した。

・専門家による各国に対する、そして大陸に対する短期的、長期的な否定的予測が、より頻繁に聞かれる。専門家が最懸念事項の一つとして挙げているのは、国民への食料供給問題である。従って、国民保護に向けた対策を講じつつも、農業・産業を維持していく方法の模索が非常に重要である。

・ロシアが、統合プロセスにおける牽引役として、経済成長の回復に向けた措置と、物資の自由なアクセスの確保に向けた同盟内枠組みにおける我々の合意を相互に関連付けることを期待する。

(5/19 大統領府公式ホームページ)

【外交】

●マケイ外務大臣、コーヴニー・アイルランド外務大臣と電話会談。

両者は、新型コロナウイルス感染拡大対策に向けた二国間の協力の重要性と二国間の経済協力の拡大を確認した。マケイ外務大臣は、チェルノブイリ原発事故の被災者に向けた支援に謝意を表明した。

(5/20 ベラパン通信)

経済

●世銀、新型コロナウイルス感染拡大対策に向けベラルーシに9千万ユーロ融資

(5/22 ベラパン通信)

●スノプコフ駐中ベラルーシ大使、チャン・シャオルン Sinomach(国机集団)会長と会談(5/20)

両者は、2020年に予定されている中国・ベラルーシ両国共同産業特区「巨石」における第二回一帯一路地域フォーラムや、二国間科学技術プロジェクト「松明」について協議した。スノプコフ大使は、貿易経済投資分野における中国との協力の前進に向けたベラルーシ側の意志と Sinomach 社をはじめとする中国企業の、中国とベラルーシの二国間関係の新たな歴史の形成における戦略的パートナーとしての役割を強調した。また Sinomach 社による2万1千着の医療用防護服の人道支援に謝意を表明した。チャン会長は、10年に及ぶ Sinomach 社とベラルーシの協力の歴史に言及し、戦略的パートナーシップや友好の発展、「巨石」の更なる拡大に向けた中国側の用意を指摘した。

(5/20 ベラパン通信)

●2020年4月、ベラルーシ外食産業商品流通率、昨年同月対比44%減少。

(5/20 ベラパン通信)

●2019年GDP、中小企業の貢献率は、26.1%。

(5/20 ベラパン通信)

●国際原子力機関、オストロヴェツ原発の安全性改善に向けた11の勧告と8つの提案を策定。

(5/19 ベラパン通信)

●ユーラシア開発銀行、ベラルーシ経済の減退と財政赤字を予測。

ユーラシア開発銀行のエコノミストは、「ベラルーシで

は百貨店の来客数やサービス産業の売上が減少し、国立銀行が取りまとめた景気動向指数においては記録的な減少を見せた。内需・外需の減少、物流における問題、景気動向指数の減退によるベラルーシの2020年GDPの減少に繋がる。経済の減退と新型コロナウイルスによって、財政赤字となり得る。2020年第一四半期の財政黒字は、GDP対比0.7%であり、昨年同期対比4分の一であった。石油取扱量の減少、石油・カリ価格の低下により、対外経済活動による歳入。経済活動の減退と重要商品の輸出減少により年換算で財政赤字となると予測する。」と述べた。

(5/19 ベラパン通信)

●2020年1月～4月、国内貨物輸送量、昨年同期対比、10.1%減少。

(5/19 ベラパン通信)

●2020年1月～4月、ベラルーシ域内総生産(Gross Regional Product)、ミンスク市を除く、全州で昨年同期対比減少。

ミンスク市:プラス0.7%

ヴィテプスク州:マイナス2.4%

ゴメリ州:マイナス3.2%

ミンスク州:マイナス3.3%

グロドノ州:マイナス0.9%

ブレスト州:マイナス1%

モギリョフ州:マイナス0.7%

(5/19 ベラパン通信)

(了)